

「足羽川洪水災害調査対策検討会」

に関する新聞記事（抜粋）

（平成16年8月4日～5日）

足羽川治水

ダム会め抜本見直しも

県水害 下流重点に調査 検討会

県が設置した福井豪雨足羽川洪水災害調査対策検討会は四日、県庁で初会合を開き、今回の水害発生に至った詳細な調査と再発防止策の取りまとめに向けた議論をスタートさせた。足羽川の治水対策については、足羽川ダム計画の在り方を含めて九頭竜川流域委員会で審議中だが、今回の豪雨はダム計画の前提となる河川の想定流量を上回った可能性も指摘されている。今後の調査次第では、足羽川の治水対策を抜本的に見直す必要性に迫られる事態も考えられるだけに、審議の行方は注目を集めそうだ。

(大田 貢市)

検討会は非公開で開かれ、授が会見した。これ、終了後に委員長の中川一・京都大学防災研究所教授と副委員長の荒井井市の天神橋から日野川克彦・福井大学工学部教

六ヶを対象に、集中的に調査検討することにした。検討対象については▽洪水の発生から破堤に至るメカニズム▽洪水発生の情報伝達▽再発防止と危機管理対策などを申し合わせたという。調査対象の重点を下流地域に絞ったことに関して中川委員長は「この検討会とは別に、(県は)山地部の土砂災害を対象にした検討会を設けると聞いている。それ以外の地域を議論しないというわけではないが、下流に集中したい」と説明。調

査の手法として「堤防のボーリングも含め、徹底した調査を実施したい」とした。また、足羽川ダム計画については、検討会としてどのようなかわるかが最初の論点になったことを明らかにした。その上で「(ダム計画が)議論のメニューの一つとなることはある。ダムに限らず、できる限りフレキシビリティ(柔軟)に検討していきたい」と強調した。

この検討会は、足羽川の洪水発生から氾濫(はんらん)被害までの各局面で、実態を把握するとともに治水対策等の方向性を明らかにしようとする。防災や土質、河川、災害心理学など、どの研究者、福井地方気象台や国土交通省の関係者ら十一人で構成しており、年度内に検討結果を取りまとめる予定になっている。

平成16年8月4日 朝刊
日刊福井新聞

豪雨 被害額33億円超える

福井

鯖江市 商工業の被害含まず

福井豪雨による鯖江市の被害額は計33億円以上となることがわかった。辻嘉右衛門市長が4日、記者会見して明らかにした。

辻市長は会見で「被災者がやる気を失わず、安心できるような施策に全力をかけた」と述べた。被害額は公共土木、農林水産業、農作物、上下水

道での合計で、商工業の被害やゴミの撤去費は含まれていないため、最終的には33億円を超えること

いう。また、7月末に閉鎖したイタリア・ミラン事務所については「すぐには事務所の成果は出なかったが、今後も違ったやり方で続けていかなければならない」と話した。

今立町は57億円と試算

今立町は4日、災害見舞金として、全壊した住宅に12万円、半壊に8万円、一部損壊に5万円、床上浸水に3万円、床下浸水に1万円を支給する

また、町は同日、学校や道路などの公共施設や、産業に与えた被害額は57億6640万円に上るとする試算を発表した。

被災者生活情報

ボランティア募集

田畑や水路清掃
7・8日、美山で

美山町西河原地区農業ボランティア案内所は7、8日の土日に、同地区の田畑に流入したゴミの取り出しや、水路の清掃を手伝ってもらえる農業ボランティアを募集している。活動時間は午前9時～午後4時。集合場所は同町西河原の西河原ふれあい会館前。長靴、弁当、水筒、軍手、マスク、スコップなどを持参のこと。問い合わせは、担当の清水正一さん(07797・4・1120か090・7083・8693)へ。

支援強化を明言

衆参の議員視察

衆参両議院の災害対策特別委員による議員団11人が4日、福井市や鯖江市などの被災地を視察した。足羽川堤防の決壊場所などを見て回り、被災者から話を聞いた。視察後、参議院の風間起团长は「現行法では及ばない支援もしっかりとやっていく」と述べた。

議員団は堤防の決壊場所や河川の水があふれ出た箇所などを視察した。鯖江市では最も被害の大きかった河和田地区を訪れ、伝統工芸の漆器業者から当時の様子や、被害などを聞いた。

風間起团长は「現行に乗せした法改正が、災害対策基本法の枠組みをしっかりと形にできるかなどで被災の支援をした」と述べた。また、衆

議院の河井克行团长は「地域社会がしっかりといるため、被害が最小限ですんだようだ」と話していた。

調査対策検討会

県庁で初会合

福井豪雨での洪水被害の実態などを検証するため、県が設置した調査対策検討会の初会合が4日、県庁であった。検証結果は6年3月までに「足羽川の洪水被害の再

とめられる。災害心理学の専門家や国土交通省の職員ら11人で構成する。委員長には、京都大の中川一教授(防災水理)が選出された。この日の会合で、福井市内を流れる足羽川の堤防決壊を中心に、決壊の原因や防災情報の伝達態勢を検証していくことが確認された。

西川一誠知事は冒頭、

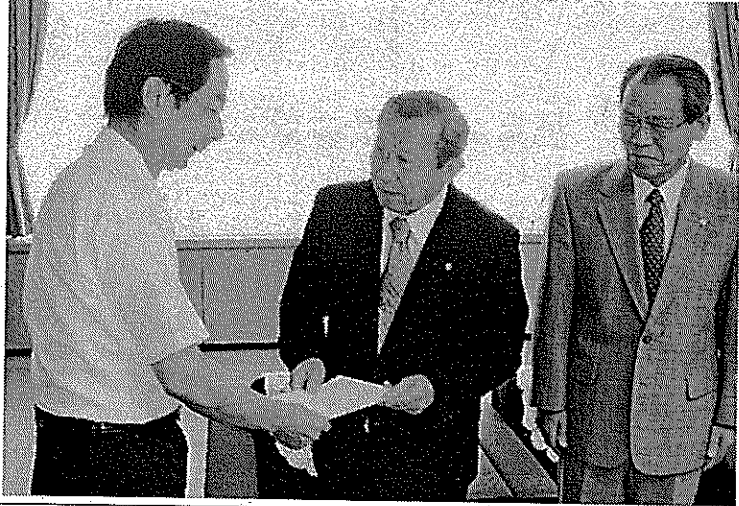
平成16年8月5日刊

朝日新聞

福井豪雨

873事業所で95億円被害

県商議所連調査 知事に復興支援策要望



西川一誠知事に要望書を手渡す江守幹男会頭
(中央) 県庁

県商工会議所連合会二日、福井豪雨に伴う福業の被害状況をまとめ、係が三十一億円と多く、八百七十三事業所、約九十五億円(推定)の被害があったことを明らかにするとともに、同日、西川一誠知事に、復興に向けての支援策を要望した。

福井市内の被害は、足羽川決壊箇所付近の春日、木田など橋南地区を対象に調査。四百五十六事業所が被災し、被害額は約五十二億円(推定)にのぼった。製造業の機械の浸水など機械設備関係が十八億円と多く、次いで建物関係十六億円、機械設備関係七億円

江守会頭は「冠水のスビードが速く、県の基幹産業、伝統産業の河和田の漆器、繊維など大きな被害を受けた。異常現象は百年に一度のことではないと思う。災い転じて福となすようにしたい」と述べ、足羽川水系の徹底的な調査なども要望した。また、浸水した福井商工会議所ビルの被害額は五億六千万円にのぼったが、年内には復旧させるとした。

再発防止策を協議

今年度内に意見まとめ

福井豪雨に伴い足羽川の治水対策などの方向性を検討する県の「足羽川

て、再発防止策や危機管理対策を検討。今年度内(来年三月まで)に意見をもとめることを決めた。また県は、同川上流の山地部での山林や土石流などの対策について検討会を設ける方針を明らかにした。

検討会のメンバーは、中川一・京大防災研究所教授(防災水理)を委員長に、学識経験者や国、福井市、県などの関係者十一人。西川一誠知事のあいさつ後、県が足羽川の現況などを説明した。

終了後、記者会見した中川委員長は、足羽川の破堤箇所下流の日野川との合流地点から足羽川上流の天神橋までの二・六キロを中心に実態を把握するとし、「雨の降り方などによる洪水発生のプロセスも重要。堤防の強度なども検討する」。またダム建設計画については「ダムありきで議論するのではなく、洪水調節ができれば水位がこうなる。河道で改修するならこうなるということが検討材料としてあがった」と語った。

臨時県議会 10日に開会

県議会運営委員会が四日開かれ、臨時議会を十日午前十時から開会することを決めた。福井豪雨災害に伴う県の支援策が議案となる。

朝刊 平成16年 8月 5日 産経新聞

堤防決壊原因など探る

足羽川洪水
災害検討会
初会合で方針確認

県は、福井豪雨による洪水を検証する「足羽川洪水災害調査対策検討会」を設置し四日、県庁で初会合を開いた。福井市春日の堤防決壊地点を含む足羽川下流一・二・六

キを重点検証区間に設定。増水から堤防決壊に至った原因と、洪水発生時の情報伝達の二点を中心に今後、検討を進めていくことを確認した。検討会は河川工学、気

象、水文学、地盤工学などの学識経験者や国、県、福井市の担当者の計十一人で構成。委員長には、京都大防災研究所の中川一教授が選任された。

この日の会合では、事務局から降雨データや被害状況などの説明を受けた後、検討方法などについて意見を交換。重点検証区間は美山町境に近い

天神橋から日野川合流地点までとした。上流部での被害については県は、土石流災害やがけ崩れなどにテーマを絞った別の委員会を発足させ、検討していく方針。

審議終了後、会見した中川委員長は「水位がどう急激に上がったのか、堤防決壊後どう被害が広がっていたのかなど、時間の観点を大事にして検討を進めていきたい」と話した。

今後、二カ月に一度のペースで会合を開催。今回の豪雨災害を踏まえた洪水対策を年度内にまとめ、西川知事に提言する。県は提言を基に地域防災計画、水防計画の見直しを進めていく。



足羽川洪水災害を検証する検討会。県庁で

(榎原 智康)

平成16年8月5日 朝刊
中日新聞

足羽川の水害再発防止へ

調査対策検討会が初会合

福井豪雨で堤防が決壊するなどした足羽川について、水害の再発防止策を話し合う「足羽川洪水

災害調査対策検討会（委員長、中川一・京都大防災研究所教授）の初会合が4日、福井県庁で開か



県庁で初会合が開かれた足羽川洪水災害調査対策検討会

福井豪雨

れた。洪水発生メカニズムや、住民への情報伝達の仕組みなどを検討して、今年度末までに意見をまとめる。

防災などの学識経験者、気象庁や国土省、県などの職員計11人で構成区間を、福井市春日1の堤防決壊地点を含む天神橋から日野川との合流地点まで（12・6キロ）と決めた。上流については、県が別の委員会を設けて検討するという。流木の

成。冒頭、西川一誠知事が「河川管理システムの充実、避難方法の改善など、被害防止策を示してほしい」と要望した。

検討会が非公開。会談後に会見した中川委員長によると、県から足羽川の地形特性や被災状況などの説明を受け、雨と河川のはららんとの関係、住民の避難の実態などを調査することを確認。対象区間を、福井市春日1の堤防決壊地点を含む天神橋から日野川との合流地点まで（12・6キロ）と決めた。上流については、県が別の委員会を設けて検討するという。流木の

【田辺一城】

平成16年 8月5日 朝刊

毎日新聞